

## 岐阜県福祉サービス第三者評価事業評価結果表

### ① 第三者評価機関名

社会福祉法人岐阜県社会福祉協議会
------------------

### ② 施設・事業所情報

名称：おさしま二葉こども園	種別：保育所型認定こども園
代表者氏名：園長 里見 みゆき	定員（利用人数）：240名（180名）
所在地：岐阜県恵那市長島町永田441番地1	
TEL：0573-25-2265	HP： <a href="http://www.ena-gif.ed.jp/osashimafutaba-k">http://www.ena-gif.ed.jp/osashimafutaba-k</a>
<b>【施設・事業所の概要】</b>	
開設年月日：平成31年4月	
経営法人・設置主体（法人名等）：恵那市	
職員数	常勤職員 21名      非常勤職員 19名
専門職員	保育士 34名      看護師 1名
施設・設備 の概要	乳児室 2室      ほふく室、調乳室、遊戯室、調理室、 保育室 9室      事務室、教材室、沐浴室

### ③ 理念・基本方針（※転載）

#### 理 念

- ◎えなの豊かな自然を活かし、地域に根ざした保育を目指す。
- ◎さまざまな体験を通して、その子らしく生きる基礎を培う。
- ◎人とのつながりを大切にし、思いやりのある心豊かな子どもを育てる。
- ◎家庭教育力を高め、子育てに喜びが感じられる支援の充実を図る。

#### 基本方針

- ◎身近な自然について興味や関心を育て、地域に開かれた園として保育をすること。
- ◎健康・安全で情緒の安定した生活ができる環境や様々な体験を通して、自己を十分に発揮できる環境を整えること。
- ◎子どもの生活や遊びを通して、自発的・意欲的に関わられるような環境を構成し、子どもの主体的な活動や子どもの相互の関わりを大切にすること。
- ◎子どもの食生活の実状に配慮し、生活と遊びの中で意欲を持って食に関わる体験を積み重ね、様々な食べ物への興味や関心を持てる環境を整えること。

④ 施設・事業所の特徴的な取組（※評価機関において記入）

本園は、恵那市が市立幼保連携型こども園（定員105人）と同保育所型こども園（定員90人）を前年度末に廃止・統合して、市内の別の場所に定員240名の保育所型こども園の新設に併せて学校法人「<sup>けいほう</sup>恵峰学園」が、同市の公の施設に係る指定管理者の指定を受け、平成31年4月から業務（管理）を開始した。

0歳児から就学前児童までを対象に、保育時間は日曜、祝祭日を除き午前7時30分から午後7時30分（標準時間）とし（土曜日は午前7時30分から午後6時）、その他障害児保育や一時預かり保育に取り組んでいる。

園庭を「コの字」に囲う木造平屋建ての新園舎は、どのスペース（クラス等）からもすぐに園庭に出ることができるなど、災害時等の避難への配慮のほか、未満児専用の園庭を設けるなど各所に安全管理（事故防止）に配慮した木の香り一杯の建物である。また、常勤看護師を配置して健康管理に配慮すると共に、給食は自前（園）調理方式で、子どもたちは目の前の調理風景を眺めながら、給食を楽しみにしている。その他、駐車場を整備し朝夕の保護者の送迎時の安全確保等も行き届いている。

今般の指定管理を機に恵那市の保育教諭（2名）と法人の保育教諭（2名）による人事交流（派遣期間2年）を行った。人事交流が双方の保育技術の向上に寄与するのではと期待される。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和元年11月22日（契約日） ～ 令和2年3月6日（評価結果確定日）
受審回数(前回の受審時期)	—

⑥ 総評

4月1日を期に旧施設（2か所）の園児の合流と新入園児の参加に加え、職員も新たな施設に人事異動等で勤務を開始するなど年度当初は全てが新しい環境の中で事業を開始した。

幼児教育の重点に「読書活動」や「英語活動」（ALT＝アシスタント・ランゲージ・ティーチャー）を掲げるほか、「友だちとの関わり」や「地域との関わり」を大切にす保育に取り組んでいる。

岐阜県が誇る木の香りが漂い、保育室の広さ・廊下の長さなど素敵な園舎に恵まれている。園庭では、園児たちが朝の太陽を背に受け、元気に保育活動に参加し体作りに励んでいる。

◇特に評価の高い点

市の幼児教育課主幹（専門職）や法人の嘱託職員（乳幼児教育施設長勤務経験者）が定期的に施設を訪問して養育等支援現場の観察と評価並びに意見交換など職員各層へのスーパーバイズ体制を活用した現任訓練に積極的に取り組んでいる。

各クラス保護者の代表、恵那市幼児教育課及びこども園職員で構成する運営委員会を定期的に開催し、利用者満足度の向上を目指した取り組みが行われている。また、利用者アンケートを実施し、その結果を園評価として取りまとめ、保護者に公表するとともに結果を分析し次年度の保育に活かしている。

◇改善を求められる点

年間の「事業計画」は、単なる行事計画ではなく、例えば、当該年度中に重点的に取り組む事項や職員の教育研修、あるいは会議の開催等、業務全般の事項を盛り込んだ内容の策定を期待する。

また、職場内コミュニケーション体制の確保について、理念と実践の相互理解・共有化に向けてコミュニケーションを図っているが、職階各層（管理職・中堅職・一般職）の相互責任（協力）のもと、「報告・連絡・相談」（情報共有）のさらなる充実を期待する。

ヒヤリハットにかかる職員への周知については、次の事故の防止につながるような様式の改善が望まれる。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

開園一年目で、保護者との相互理解や職員の連携に課題を感じることも多かったです。年度末を控えたこの時期になってようやく園の活動のテーマとして挙げた「心も体もたくましく意欲的に生活できる子」を目指して運動遊びを行い、十分な体制とは言えないまでも園内研修を行える職員集団になってきました。

今後は評価を受けたことで明確化した課題に取り組めるようにしていきたいです。

⑧第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。